

初めまして。私は、経済学部の1年生、ガクゼハン、と申します。私は今日、私の失敗の経験について、話したいと思っています(P1)。

私は、小学校5年生の時からバスケットボールをしていました。しかし、中学3年生の時、膝に怪我をしてしまって、バスケットボールを辞めざるをえなくなり、運動の道は失敗に終わりました。

いつも運動ばかりしていたせいで、全く勉強ができなかった私は、一般の高校を断念に、そこより入りやすい工業高校に進学することにしました。

もう失敗は許されないと思っていた私は、誰より熱心に勉強しました。そのおかげで、高校3年生の時、私は国際ロボットオリンピックの韓国予選に参加し、1位に入賞する快挙を成し遂げました。

その実績もあり、大学も理系の学科に進学しました。でも、大学でようやく私は、自分はエンジニアの道など求めているということに気がきました。それまで私は、再び失敗するのが怖くて、自分の適性や興味も考慮せず、ひたすら、前に置いてある道をつき進んでいたに過ぎなかったのです。

エンジニアの道でも失敗を味わった私は、深く自分を見つめ、私は一体何がしたいのだろうと問い続けました。そして、その結果、私が確信を持って選んだ道こそが、経済学の勉強なのです。

もし、私が失敗の恐怖に負けてしまっていたら、今も、韓国の大学で、退屈さを感じながら、理系の勉強をしていたに違いありません。でも、私は私の失敗を受け止めました。その結果私が得たのは、今自分が進んでいる道への確信と、毎日の授業の楽しさです。殆どの方が否定的に考える失敗というものが、私を、明日に対する不安に満ちていた生活から解放してくれました。言い換えれば、失敗が、私を、幸福に繋がる道へ導いてくれたのです。このことこそが、私が今日、皆さんに伝えたかったことなのです。

ご清聴、ありがとうございました。